■ 会議概要

- 日時：令和7年6月30日（月） 18時30分から20時00分
場所：宮崎市役所本庁舎2階 全員協議会室
出席者：委員 7名
事務局 市長、永山副市長、子ども未来部長、親子保健課職員

■ 内容

1 開会

2 市長あいさつ

- 本検討会は2月に設置され、これまでの3回にわたる議論で、宮崎市の子どもたちにとってより良い医療提供体制と持続可能性という2つの観点から深い見識に基づいた議論が進められたと認識している。
- 本日は、これまでの議論を踏まえて、今後の子ども医療費制度の方向性を示す報告書案について協議いただく。この報告書に基づき、市として子ども医療費助成制度をどのように構築するか総合的に判断していく。本日の議論が、子どもたちの健やかな成長、未来を担う子どもたちとその家庭が安心して暮らせる宮崎市の地域社会の実現につながると信じている。

3 協議事項（1）院内処方と院外処方について

事務局から資料1について説明後、質疑応答。

- 今後検討する対象年齢のかかる調剤費用については、院内処方であれば自己負担を設定せず、院外処方の場合は1医療機関あたり日額の自己負担を設定する方針について委員の皆様から了承された。

3 協議事項（2）宮崎市子ども医療費助成制度のあり方に関する報告書（案）について

事務局から資料2について説明後、質疑応答。

- 今回の提言に基づく政策実施後の影響（結果）は、事後的に検証し、継続的に確認していくことが重要であり、その旨を明記する。
- 専門家の知見や市民への分かりやすさという視点からご意見をいただき、一部文言の加筆修正を行うものの、概ね委員の皆様から了承された。

●報告書の最終調整、文言の修正、提出手続きは、座長に一任された。

4 その他（１）子どもの医療費助成制度（地方単独事業）について （２）スケジュールについて

事務局から資料3、資料4 について説明後、質疑応答。

●ひとり親医療費助成制度の高校生の通院は償還払いとなっているが、今後、子ども医療費助成制度の改正を行われ、高校生の通院が現物給付化された場合、今後制度間の整合性が問題になる可能性もある。

5 閉会